

2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として例年実施している。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施自体を再考したが、受け入れは県立美術館として責務であるとの考えにより、県内大学に絞って募集を行った（県をまたぐ移動の抑制のため）。各校に対しては、文化庁企画調整課博物館振興室より各大学宛に出された「令和2年度における学芸員養成課程に係る博物館実習の実施に当たっての留意事項について」に基づき、健康管理に留意することを徹底するよう伝えた上で開設の運びとなった。開設日時とカリキュラム、および受入大学は次のとおり。

(実習担当者：神内 有理)

開設日時と内容

8月24日(月)	9：30～10：00	開講あいさつ・オリエンテーション
	10：00～11：00	見学①「所蔵作品展」(展示替え作業含む)
	11：00～12：00	見学② 館内
	13：00～14：00	講座①「美術館と学芸活動」
	14：00～15：00	ギャラリートーク実習① 概論
	15：00～16：00	講座② 対話型鑑賞(講義と実践)
8月25日(火)	9：30～10：00	館長講話
	10：00～11：00	講座③「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」
	11：00～12：00	作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画)
	13：00～14：00	作品取扱い実習・調書作成②(日本画)
	14：00～15：00	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	15：00～16：00	見学③「特別展」(写真展)
8月26日(水)	9：30～12：00	作品取扱い実習・調書作成③(工芸作品)
	13：00～16：00	ギャラリートーク実習②(企画立案・実地見学)
8月27日(木)	9：30～12：00	ギャラリートーク実習③(企画立案)
	13：00～16：00	ギャラリートーク実習④(集約・制作)
8月28日(金)	9：30～12：00	ギャラリートーク実習⑤(発表準備)
	15：00～16：00	振り返り

受講生所属大学

県立広島大学、広島市立大学、広島大学、比治山大学、安田女子大学、広島女学院大学(6大学、計12名)

講座

今年度は新たに、「対話型鑑賞(講義と実践)」と「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」という2つの講座を新設。

ギャラリートーク実習

メインカリキュラムは、前年度から新しく始まった「ギャラリートーク実習」を引き継ぎ、所蔵作品展で展示中の作品の中から対象作品を選定し、模擬的なギャラリートークを実施した。受講生は3班に分かれ、グループワークにより、各班で対象者、作品、対象者に合わせたトーク内容、ギャラリートーク全体のテーマを決定。各班ともにそれぞれ違った視点によるテーマ設定が行われ、充実した内容となっていた。各班のテーマ、対象者、作品は次のとおり。

①	視線の先には……？ 小林千古《ミルク・メイド》、南薫造《坐せる女》、マックス・ベックマン《ヤール・マルクト》、寺田政明《さかな(悲哀)》
②	人間のかたち 平山郁夫《ひととき(憩)》、南薫造《坐せる女》、パウル・クレー《内なる光に照らされた聖人》、パブロ・ピカソ《フランコの夢と嘘》
③	絵画の気持ち 小林千古《ミルク・メイド》、平山郁夫《家路》、南薫造《坐せる女》